

仲間と奏でる喜び求め 限られた中で最善を模索

[取材協力]

柏市立柏高等学校

埼玉栄高等学校

修徳高等学校

千葉県立東葛飾高等学校

東京都立白鷗高等学校・附属中学校

法政大学第二中・高等学校

明治大学付属明治高等学校・明治中学校

神奈川県吹奏楽連盟

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府からの緊急事態宣言とともに、全国の小中学校・高校は3月初旬から臨時休校となり、通常の授業はもちろん、部活動や卒業式、入学式といった行事も行えなくなってしまった。6月に入り分散登校によって少しずつ学校生活が戻ってきたが、部活動においては感染防止対策の徹底や時間短縮等々の制限、常に不安と隣り合わせの中での活動を余儀なくされている。特に吹奏楽では練習時にも密にならない工夫が求められるほか、5月に中止が発表された全日本吹奏楽コンクールに代表されるように、多くの発表の場を失っていることはたいへん心配される状況である。

そこで今回は、首都圏の7つの高校吹奏楽部の顧問を訪ね（一部オンラインでの取材）、コロナ禍での実際の活動状況、ウィズコロナを見据えた今後の活動等々について話を伺った。特に成果発表の場を失った子供達のモチベーションをどのように保っているのか、各学校の取り組みが興味深い。いずれの学校でも感染防止策が徹底されており、とにかく今できる最善の活動を日々実践。リモート合奏といった独自の取り組みを行ったり、8月頃からは少しずつリアルな発表の場を模索する動きも出てきている。子供達も必要な感染対策をきちんと守りながら、新たな目標に向けて短い時間でも集中して練習ができおり、笑顔が戻っていると報告は嬉しい限りである。ゆっくりとではあるが、少しずつ活動の幅が広がっているのも事実。子供達の笑顔がさらに増やせるように、楽器業界としても全力でサポートに努めていきたい。

(編集部)